

令和6年度

文化部活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

愛知県岡崎市

自治体名：愛知県 岡崎市

担当課名：教育委員会事務局学校指導課

電話番号：0564-23-6439

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	387.24 km ²
人口	383,021 人
公立中学校数	20 校
公立中学校生徒数	11,183 人
文化部活動数	67 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当市の文化部活動は、休日に活動する吹奏楽部、合唱部、オーケストラ部が活動しており、平日のみに活動している他の文化部を含めると67の部活動が活動している。

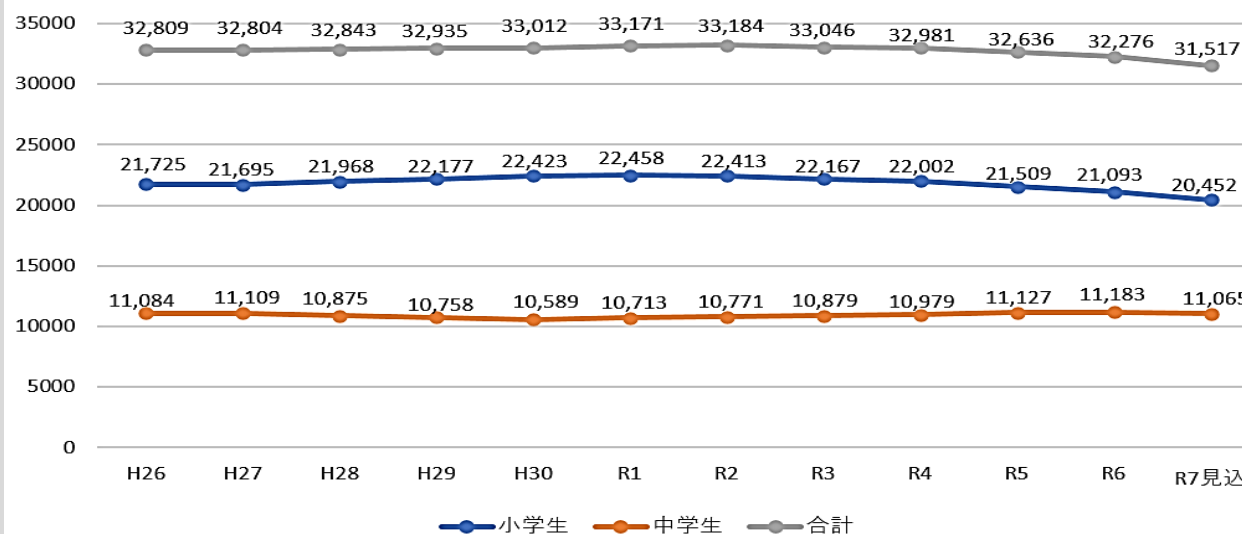
少子化については、なだらかではあるが減少傾向にある。部活動の種目によっては新規入部の募集停止を行い、活動の整理が少しずつ進んでいる状況にある。

このような現状の中、本市では、部活動地域移

行の実現に向けて、基本的な考え方、スケジュール、制度等を「岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」（岡崎モデル）」として整理した。

現在は第1段階として、令和5年度夏から市内の中学校の部活動をブロック化し、原則休日にブロックごとで活動を行うよう進めている。文化部については、令和7年度夏に音楽関係の部活動を地域ブロック部活動に移行する。

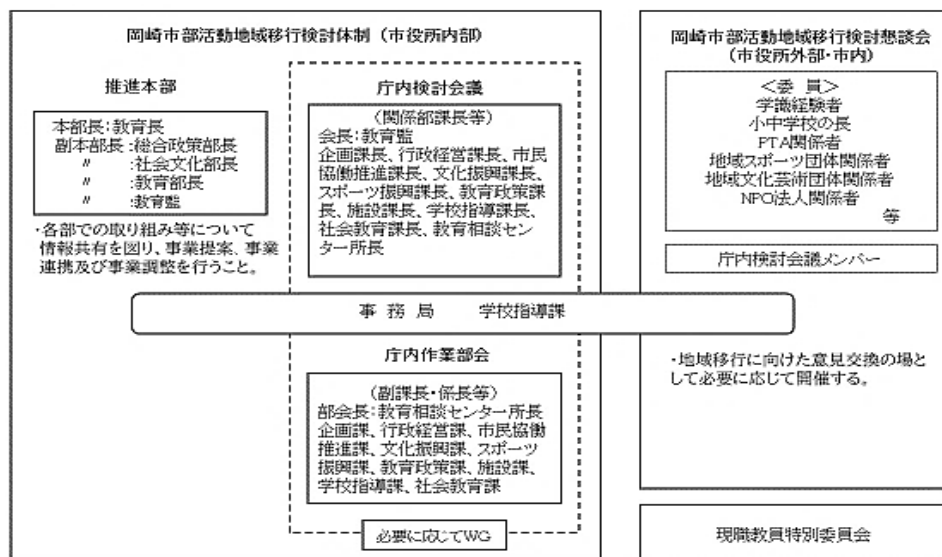
岡崎市立学校児童生徒数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

学校部活動を管轄する学校指導課は、子供がより専門的な指導を受けられるようにするため、そして、土日の教員の部活動指導の負担を軽減させるために、学校管理下の活動である「地域ブロック部活動」への移行を推進する。

◎首長部局

（１）推進本部

部活動地域移行の決定機関として、基本方針および推進計画を策定し、政策の立案を行う。関係部署における組織横断的な処理を行う。

（２）庁内検討会議

関係部課長等による素案の検討および関係部署における組織横断的な調整を行う。

年間の事業スケジュール

令和 6 年 4 月	・地域ブロック部活動に移行する部活動を行っている中学校の顧問を含めた検討会議の開催（4月26日（金）岡崎市総合学習センター多目的ホールにて実施）
令和 6 年 7 月	・地域ブロック部活動に移行する部活動を行っている中学校の顧問を含めた検討会議の開催（ブロックごとに実施）
令和 6 年 8 月	・地域ブロック部活動に移行する部活動を行っている中学校の顧問を含めた検討会議の開催（ブロックごとに実施） ・活動場所、集合・解散時の導線の打合せ ・活動日の調整及び関係者への周知
令和 6 年 9 月	・地域ブロック部活動に移行する部活動を行っている中学校の顧問を含めた検討会議の開催（9月10日（火）岡崎市総合学習センター多目的ホールにて実施） ・活動場所、集合・解散時の導線の打合せ ・活動日の調整及び関係者への周知
令和 6 年 1 2 月	・地域ブロック部活動に移行する部活動を行っている中学校の顧問を含めた検討会議の開催（ブロックごとに実施） ・活動場所、集合・解散時の導線の打合せ ・活動日の調整及び関係者への周知

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	20校	実施した地域クラブ総数	5クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5クラブ（17部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	38人	全体の運営スタッフ数	指導者と兼務

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
合唱岡崎WEST	教育委員会	合唱	2回	10/09 9:00-12:00 01/18 9:00-12:00	1年18名	随時	岡崎市立矢作中学校音楽室	8人	指導者と兼務	なし	なし
吹奏楽岡崎CENTRAL	教育委員会	吹奏楽	1回	10/06 9:00-12:00	1年57名	随時	岡崎市立甲山中学校音楽室	6人	指導者と兼務	なし	なし
吹奏楽岡崎NORTH	教育委員会	吹奏楽	1回	10/09 9:00-12:00	1年46名	随時	岡崎市立北中学校音楽室	9人	指導者と兼務	なし	なし
吹奏楽岡崎SOUTH	教育委員会	吹奏楽	2回	08/25 9:00-12:00 10/14 9:00-11:00	1年43名	随時	岡崎市立南中学校音楽室	8人	指導者と兼務	なし	なし
吹奏楽岡崎WEST	教育委員会	吹奏楽	3回	10/13 9:00-12:00 12/07 13:00-16:00 01/06 13:00-16:00	1年53名	随時	岡崎市立矢作中学校音楽室	7人	指導者と兼務	なし	なし

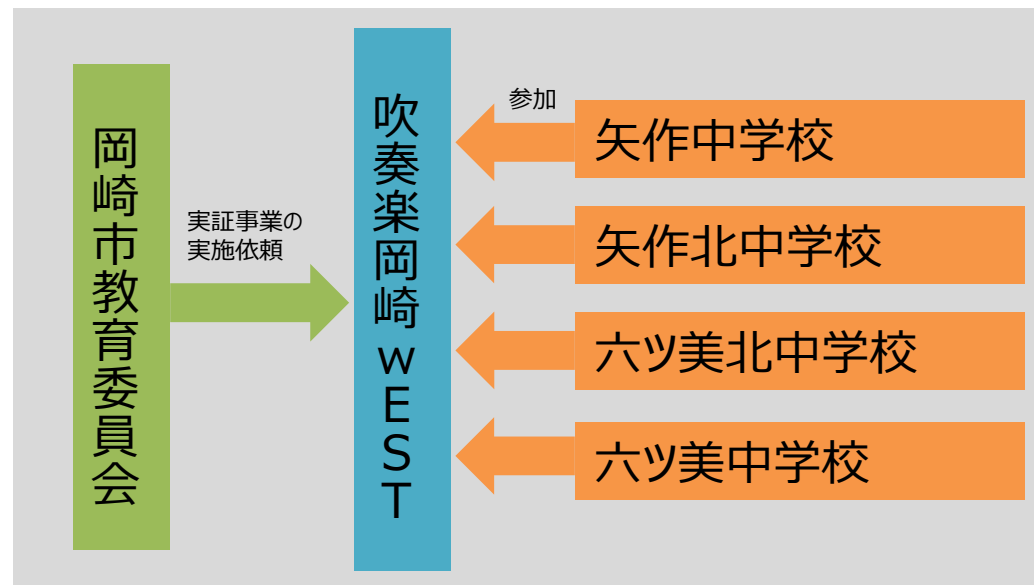
2.実証内容と成果

主な取組例

●吹奏楽岡崎WEST 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	吹奏楽岡崎WEST
期間と日数	10月13日 9:00-12:00 12月07日 13:00-16:00 01月06日 13:00-16:00
指導者の主な属性	中学校教員
活動場所	岡崎市立矢作中学校音楽室
主な移動手段	保護者の送迎、自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う。

●主任指導者 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う。

●指導・運営補助者 6名

役割：活動における補助者として、生徒への指導・運営の補助を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

教育委員会が主導し、休日の学校部活動を地域ごとにブロック化した部活動へ移行を行う。

取組の成果

○学校部活動と連携を図り、地域ブロック部活動の運営等を円滑に行うことができた。

○ICTの活用により、指導者の連絡や活動計画の打合せなど円滑に行うことができた。

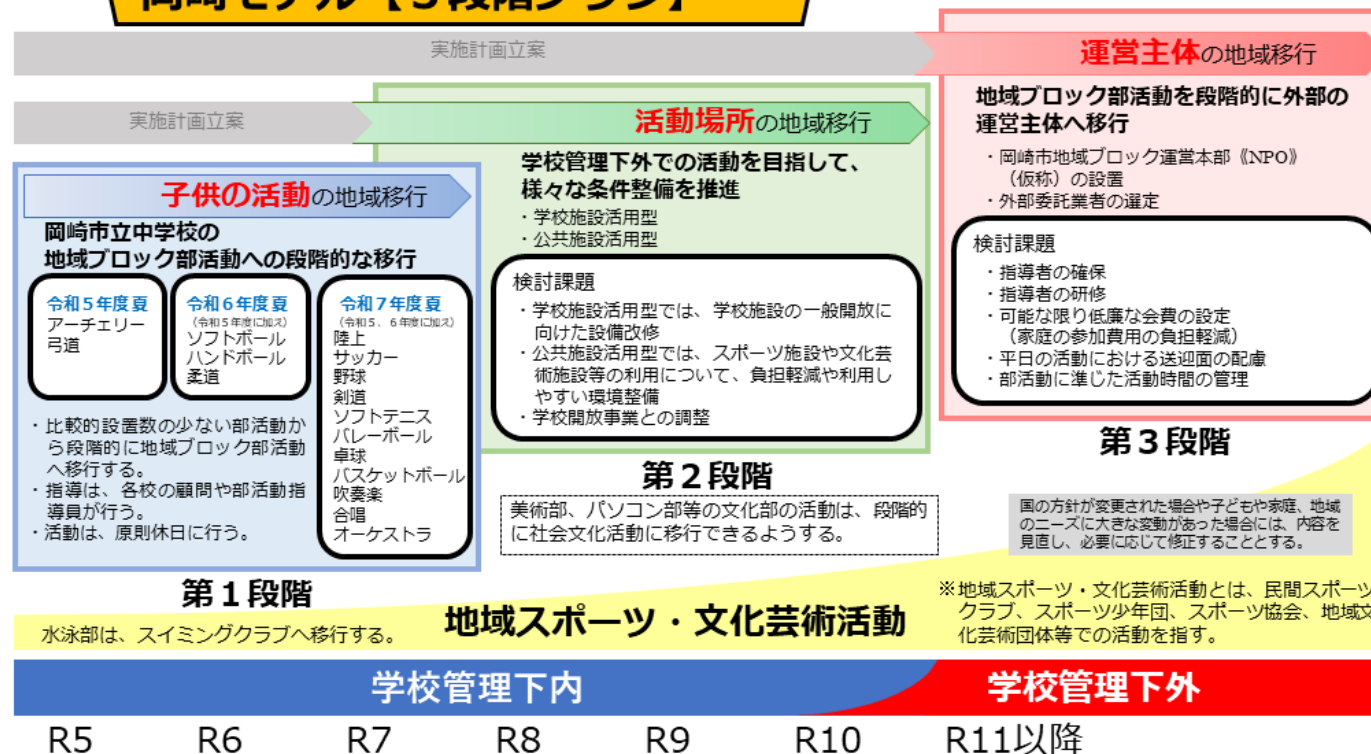
今後の課題と対応方針

●コーディネート業務を行う人材の発掘、教育委員会内での地域移行を推進する部署に設立を行う必要があると考える。

岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方について

これまで半世紀を超えて教師が献身的に取り組んできた部活動は、大きな教育的役割を果たしてきた。日本の貴重なインフラともいえる部活動、そして、岡崎市の中学生11,000人が関わる部活動を地域移行することは、大きな困難が予想される。そこで、令和5年度からの3年間は、子供の活動の地域移行として、近隣の学校を同じブロックとして市内8つのブロックに分け、中学校ごとの部活動をブロック単位で行う地域ブロック部活動を、岡崎モデル「3段階プラン」の第1段階として進めていく。

岡崎モデル【3段階プラン】



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

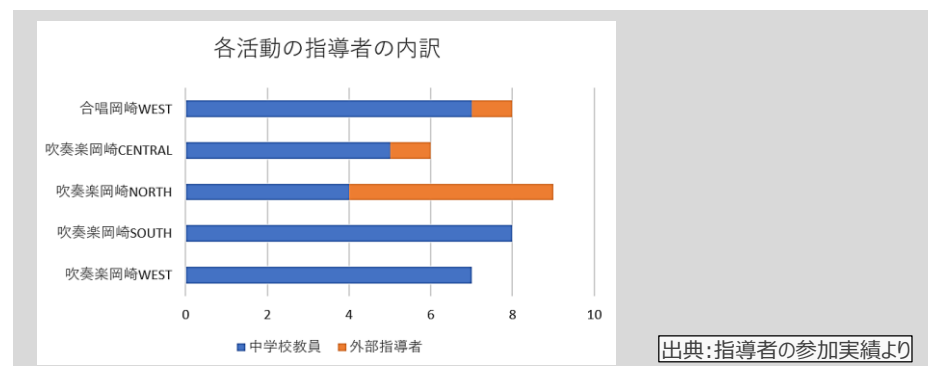
●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

- 学校部活動の顧問の中から指導を希望する者を活用し、指導者の質を保障する。
- 外部講師による専門的な指導を子供たちが受けることができる場を設定する。

取組の成果（イ）

- 学校部活動の顧問の中から指導を希望する者を31名確保した。
- 外部指導者は活動の内容に応じて7名を活用した。



取組事項（ウ）

- 学校と連携して進めていくため、中学校校長会において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 指導者の派遣について、地域の音楽活動団体と連携。

取組の成果（ウ）

- 中学校校長会を訪問し、学校の協力を求めることで、対象の活動を行っている中学校において実証事業の内容を周知する機会を得た。
- 各運営主体が活動する時は、会場の施設、開場や参加者の出席確認などを行う補助員は、開場校の教員が担当することを必須とし、地域ブロック部活動に参加する参加校の指導者が一体となって指導・運営する環境づくりを進めた。

今後の課題と対応方針

- 来年度、8月以降の土日を活動を地域ブロック部活動に完全移行することから、外部指導者の参画を進めていく必要があるため、関係団体との更なる連携強化を図る。

- 運営の効率化を図るため、Teams等のコミュニケーションプラットフォームを活用し、関係団体や外部の指導者との連絡手段について検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



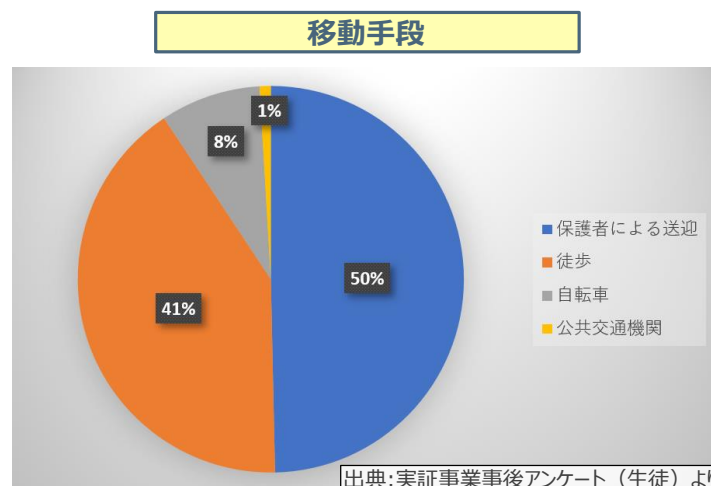
取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組 / オ：内容の充実

取組事項（エ）

・休日に活動している文化部活動を地域文化クラブ活動へ移行する取組として、吹奏楽部、合唱部の活動を設置している中学校を対象にした休日に地域ブロック部活動を実施した。

	拠点校	参加校
合唱岡崎WEST	矢作中学校	矢作北中学校 六ツ美北中学校
吹奏楽岡崎CENTRAL	甲山中学校	竜海中学校 美川中学校
吹奏楽岡崎NORTH	北中学校	新香山中学校 岩津中学校 葵中学校
吹奏楽岡崎SOUTH	南中学校	翔南中学校 東海中学校
吹奏楽岡崎WEST	矢作中学校	矢作北中学校 六ツ美中学校 六ツ美北中学校



取組事項（オ）

・吹奏楽部、合唱部、オーケストラ部の設置がない学校の生徒の活動機会の確保に取り組むことを実証事業の計画時には盛り込んでいた。実施段階において、現在対象の活動を実施している中学校が令和7年度に実施予定の地域ブロック部活動に円滑に移行することを重視したため、本取組については実施していない。

取組の成果（エ）

○公共交通機関で移動して参加した参加者は全体の1%であった。拠点となった中学校の生徒は普段の登校と同じ手段で移動し、拠点校以外の参加者が保護者による送迎となる傾向であった。昨年度の公共施設を会場とした場合はほぼ送迎はなかった。

○練習の集合時、解散時の送迎の車の導線と活動場所までの導線の確認と確保ができた。

今後の課題と対応方針

○令和7年度夏の地域ブロック部活動への移行に向け、対象の活動の設置がない中学校の生徒に対し、先行実施している運動部活動と同様に周知を行っていく。

○参加する生徒の移動手段については、半数が保護者による送迎であり、移動手段は今後も課題である。

○休日の活動を地域ブロック部活動に移行後は、平日の部活動を地域ブロック部活動に段階的に移行することが課題である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の活動場所までの移動についてかかる負担ができる限り少なくなるよう、学校音楽室を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行った。

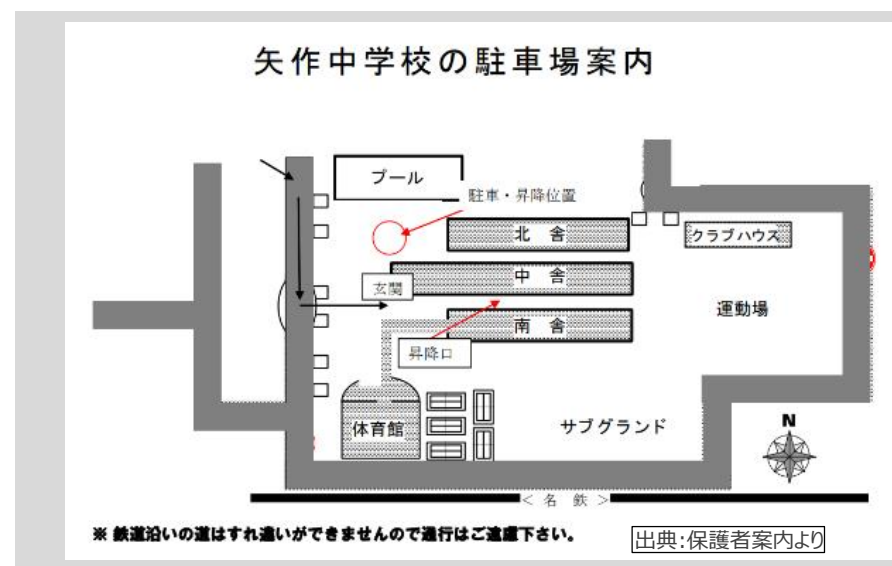
○地域ブロック部活動の拠点校に実証事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

取組の成果

○拠点校との連携を行うことで、全9回の活動において、100%の学校音楽室を利用した活動となった。

○拠点校との連携を行うことで、今回の実証事業における施錠管理については問題なく実施することができた。

○実証事業を行うことで、拠点校における保護者の送迎車の導線や校舎の利用範囲について、共通認識をもつことができた。



今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に地域のクラブ活動が行われている学校もあったことから、学校を利用している関係団体との調整を行い、事業趣旨の理解等を求める。

○現在は、学校施設の開錠を拠点校の指導者に依頼をしているが、拠点校の指導者が不在時でも安全に施設を利用できるよう施錠管理方法やセキュリティシステムを変更していく方向で進める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○運営体制と役割

教育委員会は、学校部活動を地域ブロック部活動に移行し、専門的な指導を提供し、教員の負担を軽減することを目指す。首長部局は、推進本部と庁内検討会議を設置し、基本方針や推進計画を策定し、組織横断的な調整を行う。

○実証内容と成果

市立中学校20校の17の部活動を対象として、令和7年に移行する5つの地域ブロック部活動を前倒しで実施した。指導者38名を確保し、地域ブロック部活動の運営が円滑に行われた。また、地域ブロック部活動の当事者となる生徒の顔合わせを行うことができた。

○課題

指導者の質と量の確保するため、学校や関係団体との更なる連携強化を行う必要がある。拠点校の指導者の負担が大きくなるので、セキュリティシステムの整備を進め、拠点校の指導者でなくとも鍵の管理を行えるようにする必要がある。特に吹奏楽とオーケストラでは、楽器の移動が伴うため、参加者の移動手段に対する配慮や支援が必要になる。

●成果の評価

運営の円滑化：

・地域ブロック部活動の運営が円滑に行われ、ICTの活用により指導者間の連絡や活動計画の打ち合わせがスムーズに進行した。

指導者の確保：

・学校部活動の顧問から31名の指導者を確保し、外部指導者も7名活用した。専門的な指導を提供するための外部講師の参画が進められた。

地域連携の強化：

・地域の音楽活動団体や中学校校長会との連携が強化され、地域ブロック部活動の実施に向けた協力体制が整った。

●今後に向けて

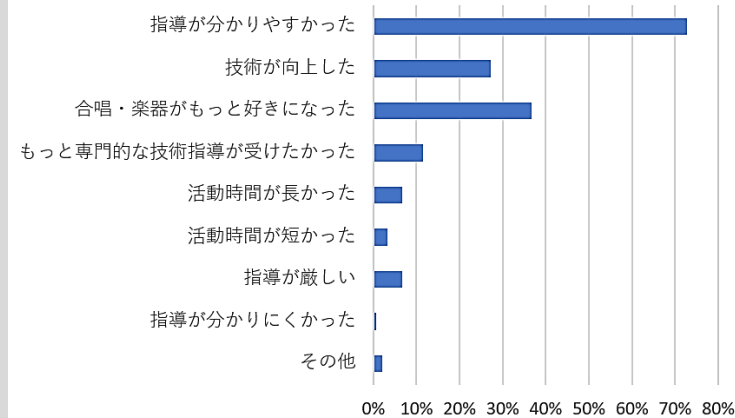
令和7年度夏：吹奏楽、合唱、オーケストラの活動を地域ブロック部活動へ移行し、持続的な活動ができるよう環境整備を進める予定である。全体として、本市の地域ブロック部活動の実証事業は、運営の円滑化や地域連携の強化など多くの成果をあげることができているが、指導者の確保や移動手段の確保など、今後の課題も明確になった。また、参加者や保護者との連絡システムや欠席連絡等の手段を確保するため、コミュニケーションツールの導入を進めていく。これらの課題に対処しつつ、持続可能な活動体制を構築していきたい。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

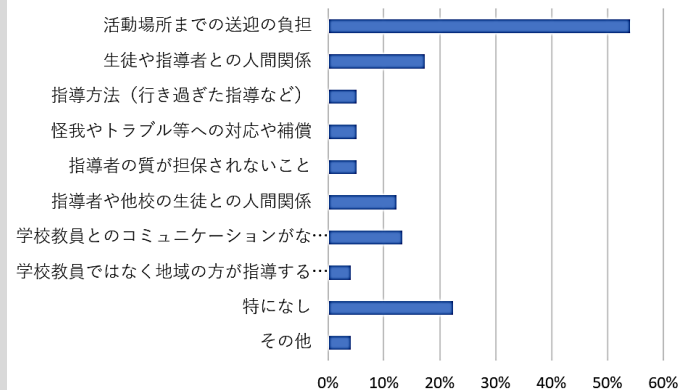
●アンケート結果

Q.【生徒】地域ブロック部活動に参加して感じたことは？



出典:実証事業「参加者アンケート（生徒）」より

Q.【保護者】地域ブロック部活動で心配なことは？



出典:実証事業「参加者アンケート（保護者）」より

●参加者の声

中学 1 年生

いつもやっていない練習方法や、知らなかったことが知れてよかった。運動部と違ってコンクール以外で他の学校と関わることはないけれど、一緒に練習できてよかった。

中学 1 年生

来年の夏以降に一緒に活動する仲間と知り合うことができてよかった。楽器をもって活動場所まで移動することが少し心配だ。

指導者

今回の実証事業では拠点校が会の運営を行い、とてもスムーズに活動することができた。今後、地域ブロック部活動に移行した際には、拠点校の負担が大きくなると感じた。分担制にする必要がある。

指導者

地域ブロック部活動では、実績のある指導者が中心となり指導していただき、ありがたかった。補助として活動する中で指導法を身に付けていきたい。

2.実証内容と成果③



広報資料

6 教学第 615 号
令和 6 年 6 月 25 日

各中学校長 様

岡崎市教育委員会教育長

文化庁活動「部活動の地域移行に向けた実証事業」について（依頼）

このことにつきまして、下記のとおり実施します。
つきましては、内容を確認のうえ、関係顧問への周知をお願いします。

記

1 目的

岡崎の子どもたちが、将来にわたり、文化芸術活動に主体的に関わることができるようにするため、本市では、学校部活動を地域ブロック部活動へ段階的に移行することを目指している。その中で、子どもたちが地域で文化芸術に継続して親しめる環境整備を進める際の課題や成果等を明らかにし、円滑な地域移行を図ることを目的とする。

2 実証事業の具体

(1) 対象の活動

吹奏楽、合唱、オーケストラ

(2) 対象生徒

対象の活動の地域ブロック部活動に所属する予定の中学校 1 年生

(3) ブロック編成

ア 吹奏楽部（4ブロック）

- A 岡、翔南、東海、福岡、竜南、額田、河合
- B 甲山、竜海、美川、常磐
- C 矢作、矢作北、六ツ美、六ツ美北
- D 北、岩津、新香山、葵、城北

イ 合唱部（2ブロック）

- A 竜海、南、福岡、翔南、東海、竜南、額田、河合、美川、甲山、常磐
- B 矢作、六ツ美北、矢作北、六ツ美、岩津、新香山、北、葵、城北

ウ オーケストラ部（2ブロック）

- A 福岡、竜南、南、翔南、東海、額田、河合、竜海、美川、甲山、常磐
- B 城北、矢作、矢作北、六ツ美北、六ツ美、岩津、新香山、北、葵

※拠点会場は、四角囲みの学校を基本とする。運営上、変更の必要がある場合は、音楽関係部活動部会、教育委員会、拠点会場で協議のうえ、変更する。

(4) 活動日

①令和 6 年 7 月 20 日（土）から令和 6 年 8 月 27 日（火）

※「会議、行事を控える期間」を除く。

②令和 6 年 10 月 9 日（水）から令和 6 年 10 月 14 日（月）

③令和 6 年 12 月 21 日（土）から令和 6 年 12 月 27 日（金）

※上の 3 つの期間の中で、活動日を音楽関係部活動部会で 1 日ずつ設定する。

※平日に行う場合、17 時 30 分から 19 時 30 分を活動時間とする。

※休日に行う場合、9 時 00 分から 12 時 00 分、もしくは 13 時 00 分から 16 時 00 分を活動時間とする。

(5) 移動方法 ※保護者の責任とする。

徒歩、自転車、保護者等による送迎

(6) 保険

生徒の移動時及び活動中の事故やけがは、日本スポーツ振興センター災害共済給付制度が適応される。

(7) 指導者

各校関係部活動顧問、部活動指導員

(8) 指導者への報酬等

①部活動指導員、外部指導者は、部活動指導員と同等の報償費を支給する。

②教員は、教員特殊業務手当と同等の報償費を支給する。

※報償費については源泉徴収を行う。

3 その他

実証事業終了後には、指導者・参加生徒・保護者にアンケート調査を行い、令和 7 年度夏から始まる地域ブロック部活動を実施するうえでの参考とする。

（連絡先：岡崎市教育委員会教育政策課 GIGA スクール戦略係 杉坂和俊 電話 23-6420）

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【中学校教員による指導の様子】



【パート練習の様子】



【合同練習で交流する生徒の様子】



【外部指導者による指導の様子】

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

協議会設置、
検討開始

令和5年

受け皿団体や
指導者の選定、
拠点校の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和7年

地域ブロック部活
の開始

令和11年

運営主体を移行
し、地域移行の
完了

●ステークホルダー

学校、文化協会、音楽家協会
地域の演奏団体、
首長部局、市教委員会。

●経過

令和4年度より検討委員会を設立し、地域連携・地域移行をどのように推進していくか検討を始めた。教育委員会主導で岡崎モデル3段階プランを策定した。令和5年度より、第1段階の子供の活動の移行を行い、地域ブロック部活動に活動ごとに段階的に移行している。

●実施内容

令和6年度は、令和7年度夏に地域ブロック部活動への移行を行う、吹奏楽、合唱、オーケストラの移行の当事者となる中学1年生を対象に、プレ地域ブロック部活動を実施した。この内、吹奏楽、合唱の5つのブロックが実証事業を行い、指導者と生徒の顔合わせを行い、合同練習を行った。

●実施にあたって生じた課題

地域ブロック部活動の拠点校の指導者に対する負担が大きいことが指摘された。鍵の貸し出し方法やセキュリティシステムの切り離しなどを検討する必要がある。さらに、運営に関わる業務の役割分担を主たる指導者が行うのではなく、運営面の責任を明確にし、偏りなく業務を振り分けられるようにしたい。

また、合唱、オーケストラの弦楽器について指導者の不足が大きな課題として挙げられている。専門的な知識をもちながら、指揮者として活動できる人材には限りがある。教育に知見をもった適任者を関係団体や関係大学、一般団体から見つけ出していく必要がある。

●今後の展開

令和7年度夏より、音楽関係の地域ブロック部活動が始まり、以降の大会の出場が地域ブロック部活動から参加することになる。連盟の加入や大会出場における事務手続きなどの業務が新たに発生することになる。

また、休日の活動を地域ブロック部活動に移行した後は、平日と休日で楽器の移動等がないよう、平日の活動をできるだけ早い段階で移行していく必要がある。地域ブロック部活動が持続的に活動できるよう、環境整備を進めていきたい。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方について

これまで半世紀を超えて教師が献身的に取り組んできた部活動は、大きな教育的役割を果たしてきた。日本の貴重なインフラともいえる部活動、そして、岡崎市の中学生11,000人が関わる部活動を地域移行することは、大きな困難が予想される。

そこで、令和5年度からの3年間は、子供の活動の地域移行として、近隣の学校を同じブロックとして市内8つのブロックに分け、中学校ごとの部活動をブロック単位で行う地域ブロック部活動を、岡崎モデル「3段階プラン」の第1段階として進めていく。

岡崎モデル【3段階プラン】

